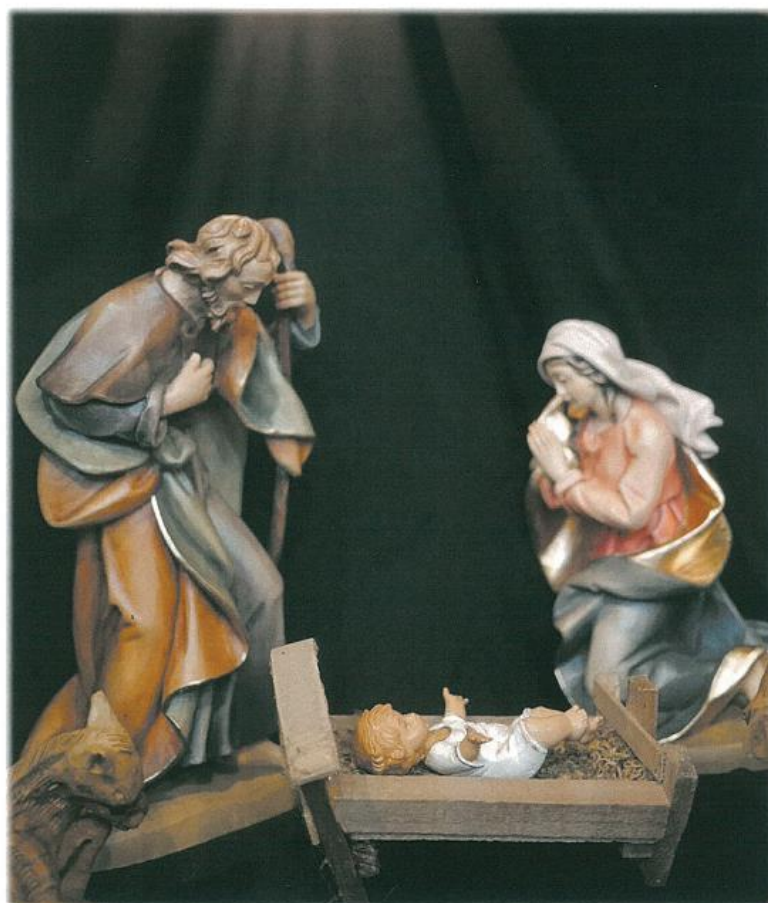


すみよし

200号 記念



2016 年 クリスマス号

[目次](#)

聖 句

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は「神は我々と共におられる」という意味である。

マタイ 1 章 23 節

選：モニカ

K. K.



[目次](#)

《愛が表れた日》

ブラッドリー・ロザイロ 神父

皆さん、今年冬が早く訪れたように思いますがいかがお過ごしでしょうか。
さて、教会が待降節に入りクリスマスの準備をしているところです。この時期にあたり私は
皆さんとクリスマスメッセージを分かち合いたいと思います。

父である神さまが私たちを愛していることをキリストを通して教えてくださいました。
その愛（キリスト）がこの世に来られた出来事を私たちはクリスマスと言います。私たちは
キリストをとして神の愛の大きさを知ることができました。しかし、現在の日本の社会を見
るとこの愛を知らない人、愛に飢え渴く人がいると思います。他にホームレスの人、心の病
を持っている人、虐待や会社の倒産やリストラなどに悩まされている人々もたくさんいると
思います。

こんな社会の状況の中で私たちはクリスマスを迎えようとしています。私たちにとってキ
リストの誕生を祝うとはどういうことでしょうか。そして、今年のクリスマスに当たり神さ
まに何をお願いしたらいいのでしょうか。ペトロ神父の祈りにこんな言葉があります。

主よ、私の心においでくださいませんか。

私の心の「馬小屋」ではなく、心の応接間にいらしてもらいたいのです。

心がきれいだからという意味でなく、きれいにしてもらいたいからです。

変わりたいからです、変えてもらいたいからです。

あなたがおいでになれば、きっと私の心は明るくなるでしょう。

そうすると、あなたの思いやりや優しさは、自然に、なごやかに、

私の心の窓から、周囲の人たちにも流れて行くでしょう。

主よ、お願いします。あなたの愛を、クリスマスの愛をください。

皆さん、待降節は自分の心がきれいになっているかを確認する時です。ペトロ神父様の
「きれいにしてもらいたい、変えてもらいたい」という言葉が心を確認するよう私たちを招
いているように思います。この招きに応え、自分の心をきれいにするによってキリスト
を心から喜んで迎えることができると思います。



神様の愛（キリスト）が私たちの心に表れますように。



目 次



☆	聖句	K.K.	．．．	1
☆	巻頭言	ブラッドリー神父	．．．	2
☆	目次		．．．	3
☆	待降節黙想会	和田幹男神父	．．．	4-5
☆	“ふっこうのかけ橋”プロジェクト		．．．	6
☆	中高生・大学生サマーキャンプ	A.S.	．．．	7
☆	セニョール・デ・ロス・ミラグロス		．．．	8
☆	フィエスタ（バザー）		．．．	9
☆	幼児洗礼		．．．	10
☆	七五三の祝福		．．．	11
☆	ベトナム巡礼旅行	R.K.	．．．	12-14
☆	特集「すみよし」200 号をたどる		．．．	15-21
☆	（教会日誌・信徒動静）		．．．	(22-23)
☆	後記		．．．	24

題 字 J.Y.

「すみよし電子版」はカトリック住吉教会 HP にフルカラーで掲載されています。

左記 QR コードからのアクセスもご利用下さい。



《待降節黙想会》

指導司祭 和田 幹男 神父

11 月 27 日、待降節第一主日に黙想会が行われた。伝道師のお父上のもと、幼少期を住吉教会と密に過ごされた和田神父の霊名は「パウロ三木」。当時の懐かしいエピソードも交えながら、詩編の正しい理解を中心とした指導を受けた。待降節のはじめに、私たちの日々の生活を顧み、信仰を深める貴重な標を頂いたと思う。黙想会のあと聖体顕示式が行われ、引き続き赦しの秘跡があった。



詩編8 Domine, Dominus noster 主よ、わたしたちの主

主よ、私たちの主よ
あなたの御名は全地にあつて
なんと力強いことでしょうか。
(中略)

あなたの天、あなたの指の業を、
月と星、あなたが配置なさったものを見れば、
人間は何ものなののでしょうか。
そのあなたが御心に留めてくださるとは
人の子は何ものなののでしょうか
あなたが顧みてくださるとは。

人を神に僅かに劣るものとし、
栄光と威厳を冠としていただかせ、
あなたの御手の業を治めさせようと
万物をその足元に置かれました。

羊も、牛もすべて、
それに野の獣も、
空の鳥も、海の魚も、
海路をわたるものも。

主よ、私たちの主よ
あなたの御名は全地にあつて
なんと力強いことでしょうか。

～和田神父による解説～

畏れ敬う主への呼びかけで祈りは始まる。地上にあるもの、ひとつひとつの奥に、力強い神の存在、神の御業がみえる。心の眼を開いてこのことを認識しよう。

太陽が正義・神の秩序のシンボルであるのに対し、月と星（夜）は混乱や苦しみを象徴する。暗闇の中で人間の存在を改めて問う部分。これは哲学でも問われる人間の根本的な問題である。

参考：ヨブ記 7 章 詩編 145

人間は神の似姿として造られた。そして被造界にあつて人間は王者的な位置に据えられた。人間は神のかたどりとして、被造物に対する神の思いやりをも証する存在である。

参考：創世記 I 26-28

心を失いがちな現代。神が造られた自然界を愛し敬うことを思い返したい。

参考：マタイ 7 章

最重要部分のリフレインで詩編は締めくくられる。

詩編23 Dominus pascit me (和田幹男神父訳) 主が羊飼い

主が羊飼いとしてわたしを導いてくださり、
わたしには何の不足もありません。
草原にわたしをくつろがせては、
穏やかな水のほとりに連れて行き、
わたしの魂を活気づけてくださる。
御自分の御名のゆえに、
正しい行路にそってわたしを案内し、
死の陰の谷間を歩むことになっても、
わたしには災いの恐れはありません。
あなたがわたしと共にいてくださり、
あなたの杖、あなたの鞭がわたしの慰めとなるからです。

わたしの敵に対するのとは異なり、
わたしの前には宴を準備し、
香油をわたしの頭に塗り、
わたしの杯を満たしてください。
わたしの全生涯をとおして、
まさに恵みと慈しみがわたしのあとを追ってくる。
わたしは生きている限り、主の家にとどまります。

作者はこの詩編を人生の終盤に書いたのだろうか？ 詩編前半は「愛情をもって力強く導かれる主」、後半は「恵みに満たされて私たちが行きつくところ」がうたわれている。

私は羊。主は羊飼いとして私を世話して下さい。洗礼をイメージする「水」で、私の魂（ヘブライ語では喉の意味）は活かされる。前半の締めくくりは、決して私たちから離れることのない「共にいる神」の存在である。

首長、宴会の招待者の姿で、主は我々の前に現れる。振り返れば、人生には陰しい時期もあったが、主の導きにより今の私があり、恵みと慈しみはいつも私のあとを追ってきた。残された人生を、私は主の御許で過ごします。宴は、感謝の祭儀をイメージさせる。

聖母マリアの賛歌 (和田幹男神父訳)

『マグニフィカト』

わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊はわたしの救い主なる神に喜び躍る。
まことに、そのはしめられが卑しめられているのを
顧みてくださった。
見よ、今後いつの世もわたしを幸いなものという。
まことに力ある御方がわたしに大いなる御業を
成し遂げてくださった。
その御名は聖なるものにして、
その憐れみは、主を畏れ敬う者に世々に注がれる。
主はその御腕をもって威力を現し、
自惚れ驕っている者を散らされた。
権力者をその座から降ろし、
卑しめられている者を高められた。
飢える者を良いもので満たし、
富める者を空しく送り返された。
その憐れみを御心に留め、
その子イスラエルを助けに来られた。
わたしたちの先祖たちに、
アブラハムとその子孫に約束されたように。

マグニフィカトは待降節に最も相応しい教会の祈りだ。

ガブリエルのお告げを受けたマリアが「なれかし」と応えたところに教会の始まり（受肉の神秘）があり、教会はマリアと一体である。

特に最初の3節を大切にしたい。マリアの心の喜び、死を乗り越えて永遠に続く賛美が伝わってくる。

マリアは身分が低かったのでも、不妊とさげすまれたのでもない。

参考：(背景) サミュエル記上 2 章 1-11 節

マリアは、神に選ばれ護られて「神の子を宿す」言い換えれば「神の言葉を宿す」ことを最初に受入れた女性なのだ。神の言葉を受け、洗礼により信徒となった私たちのかがみである。

《 “ふっこうのかけ橋” プロジェクト 》

8 月 4 日(木)～8 日(月) (5 日(金)～7 日(日)は六甲自然の家 CAMP に合流)

5 年目となるふっこうのかけ橋プロジェクト。今年も多くの方の支援と祈りに支えられ無事に実施できました。お忙しい中ご参加くださった神父様方、子供達をよく見てくれた六甲学院生、高校生・大学生、登山隊、リーダー、全ての皆様に心から感謝！

4 日ー福島から 8 人のお友達が到着。夜はたこ焼きやお好み焼きを作り、花火をして、住吉教会に宿泊。



神父様があおいでくださる中、ジクソーパズルにも挑戦！

5 日ー神戸中央教会で神父様から祝福を授かり、六甲自然の家に向けて出発。

1・2年生はケーブルとロープウェイで、3 年生以上は約 10km のトウエンティークロスを 6 時間かけて登りました！



お弁当の後の川遊び。暑さの中、水のかけ合いが始まり、皆びしょびしょに♪

6 日ーラジオ体操と朝の祈りでスタート。午前中はハードなアスレチックに挑戦。お昼は BBQ でお腹一杯～！午後からは、カヌー・アーチェリー・ザリガニ釣りの班に分かれて楽しみました。夕方からのキャンプファイアーは雷で中止に☹ 室内のキャンドルサービス と各班準備のスタンプで楽しみました。



7 日ー神戸中央教会まで下山。用意してくださった素敵なランチをいただき閉会式。

2泊3日の CAMP も無事終わりました。

その後、福島のお友達は須磨海岸で遊び、夜は鷹取のお祭りを楽しんで、たかとり教会で宿泊。8日はポートタワーや観覧車、お買い物を楽しみ、新幹線で帰路につきました。



《サマーキャンプ in 紀伊田辺教会》

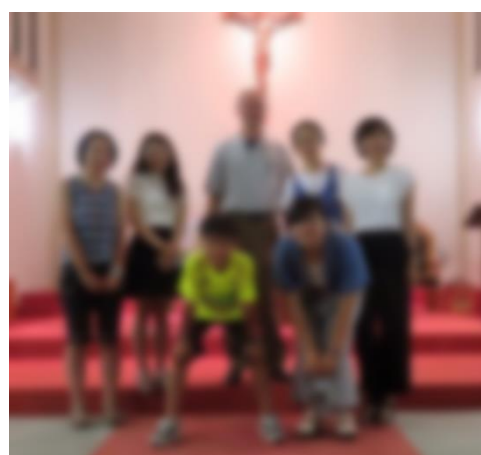
A. S.

夏真っ盛りの 8 月 20 日（土）・21 日（日）、私たちは和歌山にある紀伊田辺教会へ行きました。近くに浜辺のある紀伊田辺教会はまさに「海に見える教会」という表現がよく似合う、素敵な教会でした。昼頃に到着し、私はまずパウロ神父様との再会に感動。約 10 年前、教会建て替え工事のため旧園舎で行われたミサで初聖体をパウロ神父様から頂いた身としては、非常に嬉しい再会でありました。到着後は、屋形町教会などからこられた方々と共に昼食をとり、簡単なオリエンテーションを済ませたのち、私たち一同は近くのビーチに向かいました。白い砂浜、青い海、そして泳ぐ神父様。そこはまさに地中海のようで、心躍るものでした。地中海(?)を満喫し教会の横のログハウスに戻った私たちは、神父様から今年ポーランドで行われたワールドユースデイのお話を聞きました。世界中から集まった同じ思いを持った同世代と共に幸せな時間を分かち合う、私もその輪の中に入り共に喜びを感じたい、そう思える素敵なお話でありました。夜は BBQ を楽しんだのち、お聖堂で祈りを捧げ心安らかな時を過ごしました。就寝までお風呂屋さんに行ったり花火をしたり、いつもとは違う素敵な夏休みの 1 日を送ることができました。



二日目。朝食後、ミサまで時間があつたので朝の海へ散歩に行きました。朝日を浴びて輝く静かな海を見て、なんとなくではありますが、今日 1 日が素敵な日となる予感がしました。紀伊田辺教会の方々と共にミサに与り、昼食は紀伊田辺の方々と共にカレーをいただきました。昼食後、解散したのち、私たち住吉教会一同はパウロ神父様のいらっしゃる屋形町教会に赴き、プチ和歌山観光をしたのち神戸へ帰宅しました。

この二日間、たくさんの方々が私たちが快適な二日間を過ごせるよう、様々な部分で準備してくださいました。今回このキャンプに参加したすべての方に感謝の言葉をお伝えします。



[目次](#)

《セニョール・デ・ロス・ミラグロス》



10 月 23 日（日）世界宣教の日に、「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」（奇跡の主）のお祝いがありました。傘木神父・アルフレド神父（六甲教会）・ラモス神父（オプスデイ）の司式で、スペイン語・日本語のバイリンガルミサが執り行われ、ミサの後、「奇跡の主」の御絵をかかげたみこしの聖行列が教会・幼稚園敷地内で行われました。

ペルー料理の昼食のあと、ペルーの音楽や踊り、ビンゴ大会、などにぎやかにお祝いが続きました。ピエロショーでは子供達も一緒になって盛り上がりました。

住吉教会で、「セニョール・デ・ロス・ミラグロス」のお祝いをするようになって今年で 25 年となりました。祖国ペルーを離れての四半世紀、その間神戸では震災があったりと・・・決して平坦な道ではなかったと思いますが、篤い信仰をもって歩まれ、この日を迎えられたことと思います。25 周年おめでとうございます。



日本人信徒も
交替でみこしを
担ぎました



ペルーの民族舞踊
マリネラ



《フィエスタ（バザー）》

11月13日(日)

澄み渡った青空の下、今年はバザーをちょっと縮小したフィエスタが行われました。たくさんのお客様をお迎えし、1階ではホーリーコーナー、インド雑貨、住吉名物のタイカレーにビーフカレー、ペルー料理、甘いぜんざい、子供コーナーでは綿菓子、お母さんたちの美人喫茶、お寿司に名店のコロッケ、2階では人気の雑貨とリサイクル。子供主催のビンゴは、はらはらドキドキ・・・景品も心楽しい品々でした。神様はきっとにこにこ楽しくあちこち覗かれ、一緒に過ごして下さったことでしょう！！感謝



にぎやかなキッチンは大忙し



インド雑貨、素敵です

わたがし、うまうできたよ！



可愛いお手伝い♪がんばって！



看板娘トリオ？



ホーリーショップでお買い物



子供の名司会のビンゴゲーム



ペルー料理にビールは最高！



男性陣も毎年大活躍の焼き鳥屋さん



お客様と歓談



目次

《幼児洗礼》

10 月 9 日(日曜日)、住吉教会で 5 人のお子さんの幼児洗礼が行われました。

神妙な顔、ニコニコ笑顔、緊張した表情、元気な泣き声…などにぎやかでほほえましい洗礼式でした。

小さい方々は、ご両親ご家族の「喜び」であると共に、私たち教会みんなの「喜び」と感じる秋の日でした。



**洗礼
おめでとうございます。**

アシジのフランシスコ	H.F.さん
クリストフォロス	Y.F.さん
マリア	U.M.さん
マリア・テレジア	M.Y.さん
マリア・クララ	A.Y.さん
12 月 11 日 トマス	F.H.さん

《七五三の祝福》

11 月 20 日（日）

「王であるキリストの主日」のミサの中で、4 人のお子さんの七五三の祝福がありました。

教会の皆さんが温かく見守る中、子供たちはコンスルタ神父様から一人ずつ祝福を授かり、おメダイ、飴をいただいて嬉しそうでした。感慨深げに見つめるご家族が印象的でした。世界中の全ての子供たちの上に、神様の豊かなお恵みが降り注ぎますように。



今の気持ちを聞かせてください



7歳：ルチア A.S.ちゃん、マリア・ローザ R.M.ちゃん、A.M.ちゃん

3歳：クララ Y.H.ちゃん おめでとうございます ♪

《ベトナム巡礼旅行》

R.K.

神戸バイブル・ハウス友の会企画のベトナム巡礼の旅（2016 年 11 月 28 日～12 月 2 日）に参加いたしました。この巡礼旅行はトゥアン神父様を団長として各教会から集まった 32 名の皆様と一緒に行了きました。

トゥアン神父様は 2013 年春から約一年間日本語研修のために住吉教会に住んでおられました。まさに私たちの自慢の息子のような存在でいらっしゃいますので住吉教会からは 8 名が参加いたしました。

ベトナムは各教会が大きく、信者数も多く、夕方のミサにも多くの信徒が参加して熱い祈りを捧げておられ信仰の熱心さに感銘を受けました。

この巡礼で訪れた教会で人々の温かいおもてなしに感謝しながらの素晴らしい巡礼でした。主なところを記してみます。



第一日目、ベトナムに着いて、まずタンチーリン教会を訪れ夕方 5 時から毎日捧げられているミサに仲間入りさせていただきました。ミサの前にロザリオの祈りが大きな声で唱えられていました。広い広い大きな御聖堂の中は大人と子供でいっぱい。聖歌隊の方々はお揃いの緑のアオザイに身を包み美しいハーモニーでマイクを通して御聖堂のすみずみまで響き渡るように歌われました。



タンチーリン教会の主任キャップ神父様は 2014 年 3 月にベトナムのマン枢機卿様とご一緒に住吉教会に来てくださいましたし、トゥアン神父様を司祭に導いて下さった方でもあるので、殊の外親しく感じました。ミサの後別のお部屋に招き入れられ信徒の皆様が果物やパンやお菓子や飲み物をテーブルいっぱいを用意してもてなしてくださり、聖歌隊の皆様が美しい歌声でクリスマスの聖歌を歌って私たちの旅の疲れを癒してくださいました。

第二日目はホーチミン市内、聖マリア大聖堂、大司教館、神学校、歴史博物館、ベンタン市場、郵便局等見学いたしました。



聖マリア大聖堂



大司教館



神学校の聖堂





大司教館ではロン・マインホン補佐司教様が出迎えてくださりベトナムの教会事情を色々話してくださいました。ベトナムは人口が約 9200 万人で信者は約 7%弱の約 620 万人ということでした。次に訪ねた神学校は約 280 名の神学生が勉強している神学校です。神学生がスポーツを思い存分できる広い

運動場をみながら食堂に向かいました。チャップ院長様の案内で神学生が一堂に集まって食事をしている食堂に行きました。中まで入るようにと誘ってくださいました。間近で見る若い神学生は賑やかで楽しそうで活気に溢れほんとかわいいなあと思いました。こんなに沢山の神学生が在学しているなんて羨ましくなりました。将来に明るい展望が感じられました。



その後、住吉教会の土曜学校のキャンプにトゥアン神父様と一緒に参加して下さったことのあるチー神父様が主任をしていらっしゃるフージン教会を訪ねました。久しぶりの再会を喜び合いました。

夕方いよいよトゥアン神父様のご出身の教会、タイビン教会を訪問致しました。ここでも昨日のタンチーリン教会と同じように夕方 5 時



から毎日捧げられるミサに参加させていただきました。子供たちも百人近くがミサに与っていました。特に侍者の子供二人が凛々しく、主に仕えているのだという所作で神父様にお仕えしていたのが心に響きました。



ここでも聖歌隊の皆様が何本ものマイクをとおして御聖堂中に響き渡るように聖歌を歌っていらっしゃいました。



ミサの後は教会のすぐ近くのトゥアン神父様のおうちに伺いご家族にご挨拶いたしました。その後タイビン教会に戻り住吉教会の出会いの広場の何倍もある広いスペースに準備して下さったいくつものテーブルに 10 人ずつ座り、トゥアン神父様のお父様、お母様、お兄様、お姉さまはじめ沢山のご家族と一緒に大変なご馳走の美味しい夕食を頂きました。

旅行メンバーの中の M さんがお母様と同じ 86 才でいらしたので、お母様がとっても喜ばれお二人で肩を抱き合って仲睦まじくなさっていたのが心に残っています。お別れするのが寂しいのに、言葉が通じないので誰からということもなく聖歌を歌いましょうとの声上がり、アドベントの季節にふさわしい「きよしこのよる」を歌いお礼とお別れの挨拶といたしました。

大事なご子息を遠い知らない国に送り出してくださいましたご家族に、特にご両親に感謝をしなくてはならないと心から思いました。



ここまで旅の前半のサイゴンをガイドしてくれたのはお笑いの岡村にそっくりのユーモアたっぷりで楽しませてくれたトゥンさんで、自分でも「岡村と呼んでください」とのことだったのでベトナム語がちんぷんかんぷんの私たちは岡村君、岡村君と頼りにして通訳をしてもらいました。彼のことも忘れられない思い出の中に納めました。

第三日目はホーチミンから空路ダナンに、残念ながらダナンは雨でした。

ピンク色の美しい教会ダナン大聖堂、チャム博物館をまわり、夕方ホイアンの教会でミサにあずかりました。ホイアン教会の主任のホアン神父様はトゥアン神父様とお友達のお若い神父様でお二人が再会を心から喜んでいらっしゃるお姿に私たちも嬉しさに満たされました。大きい黒い犬と小さい茶色い犬が私達をお御堂の中に招き入れてくれま



した。御聖堂の中は修理中で、特に祭壇のあったところは台風のために崩れ落ち幕が張った状態でミサの間中風と雨でばたばたいていました。古代の教会の幕屋を思い浮かべました。

ミサが終わった時驚きました。ミサの間、一緒に祈っていたのか静かだった二匹の犬が終わった途端尻尾をちぎれんばかりに振って私達のところにとんできてくれて大歓迎してくれたのです。あまりの可愛さにみんな心が子供のようにになりました。

第四日目はベトナムのもっとも有名な巡礼地ラ・ヴァン聖母教会を訪ねました。聖母像の前には沢山のベンチが並べてありミサが捧げられるようでしたが、あいにく雨ふりでしたので聖母像横の聖堂でミサに与りました。

ベトナムも日本と同じように長く厳しい迫害の時代があり、多くの宣教師が殉教されたそうです。その時期カトリック信者も迫害されました。信徒たちはラ・ヴァンの山の中やジャングルに逃げ込み熱心にロザリオを唱えて信仰を貫いたそうです。この信徒たちにマリア様が出現されました。ルルドと同じようにラ・ヴァンはベトナムの大切な聖地となっています。



今回の巡礼はベトナムのバイクの行きかうホーチミンの市街や人々の活気、多くの迫害と殉教に耐えて信仰を守ったカトリックの大きな諸教会と、人々の熱い祈りと信仰にふれ、豊かなお恵みを頂いたすばらしい心満たされた巡礼旅行でした。



200 号

を
たどる

「すみよし」200号にあたり
池長大司教からお言葉を頂きました

《住吉教会の姿》

池長 潤

「すみよし」が発刊以来200号を迎えられると聞き、大変嬉しく思います。

住吉教会は私のすごく好きな教会です。大阪教区の中でも中堅の教会で、人数がかなり多いだけではなく、非常に協力的で、何かを頼んでも大勢の信者がすぐに加わって気持ちよく手伝ってくれます。これは教会がとても家族的で、普段からお互いにあたたかく、なごやかな関係を作っているからだと思います。いつもの日曜日のミサの後も、皆でお茶を飲んで楽しく話し合う姿が印象的で、訪問するたびに自分もそれに巻き込まれてしまうようになっていました。これが自然と、何かがあった場合でも皆でまとまって対処する習慣が育まれた源泉なのでしょう。

例えばバザーとなると、教会の信者全員が腰を上げて協力し、素晴らしい成果をあげるので。私も住吉教会のバザーに顔を出してみようかと思い、この雰囲気味わったことがあります。ただ日曜日のミサ司式に行くだけではなく、バザーのような機会に教会共同体に触れることによって、その教会の本当の姿を見ることができます。

典礼を見ても住吉教会の場合、典礼の中でさまざまな役割を担う責任分担が、幅広く信者層にゆきわたっていることがわかります。典礼奉仕も皆でやろうという心の現れでしょう。

私が現役の大阪教区の大司教であった時、赤波江神父を神戸中央教会に送りましたが、住吉教会に後継者を派遣しなかったのは、教区内の司祭の数が足りなくなっている現在、住吉教会なら信者が、自分たちの力で教会をうまく運営してくれるだろうと考えたからでした。教会の皆様には、ますますお互いに協力しあって、さらに素晴らしい住吉教会にしてくださるようお願いいたします。



私が淡路の洲本に移ってから、もう2年になろうとしています。カトリック洲本教会を囲む環境はとても静かな落ち着いたところで、一方の側は、なお稲が広がっていて、夏には蛙の声がよく聞こえ、秋には虫の音が心を癒してくれます。その反対側には洲本第3小学校があり、他の2方向は住宅に挟まれています。

教会の聖堂は、古い建物がシロアリに蝕まれて危険な状態になっていたため、皆様から頂いたご寄付によって今年の2月6日に新しく建て替えられ、献堂式が行われました。美しい聖堂に仕上がってとても喜んでいます。

～表紙に見る「すみよし」200号の歩み～

創刊号 1953 年 5 月



手書きのガリ版印刷の
創刊号です。

初めのころは月刊誌でした。



創刊によせて

今度住吉に於いても、私達の新聞を出す事になった事を非常によろこばしく思います。私達の活動や信仰の様子等が皆の眼に入り、私たちの属する教区内の事柄に対する関心も深まり、私達を一層親密なものに結びつけてくれる効果があると思います。又各人が日頃胸に抱いている考え等を述べる発表機関として利用し、私達の教区をよく建設していく為の一助ともしたいと思えます。キリストの偉大な計画の実現には私達皆が各々の職分に応じて参加せねばなりません。私達は唯砂上楼阁的な事だけを夢見る事なく、一步一步私達の手近にある事からこの大計画の実現に協力してゆきましょう。その意味に於いてこの新聞は、私達皆のものであり、私達皆がこの新聞の成長に力を添えてゆきませう。

(「すみよし」創刊号2Pより抜粋)

第19号より、表紙はカラー印刷になりました。広告を載せ、
広告収入より印刷代を捻出されたそうです。(中はガリ版印刷のまま)



ご存じですか？

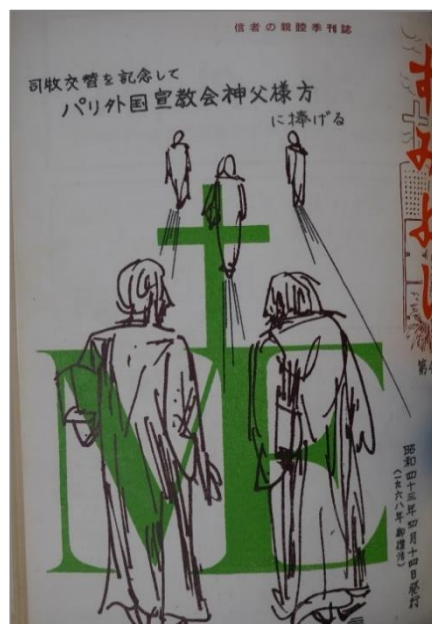
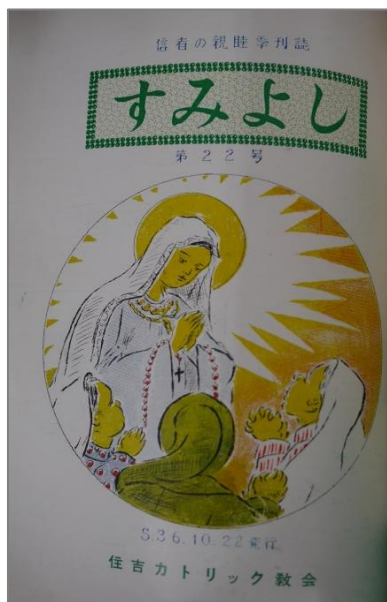
1953 年の「すみよし」創刊の前、戦前には「焰」という広報誌が発行されていました。

現在、住吉教会に残る「焰」の最も古いものは昭和 12 年(1937 年)5 月発行のものです。(創刊は 1937 年 4 月との記録があります)

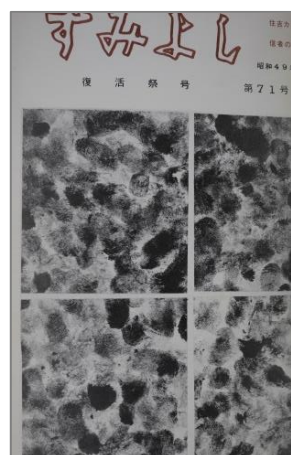
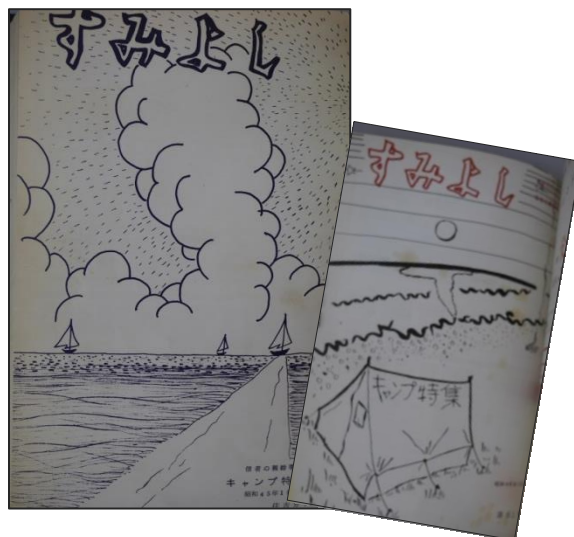
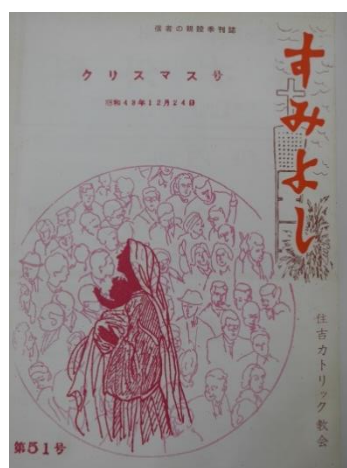
当時の主任司祭メルシエ神父が、「焰」の由来について「月報の名前『焰』とは何処から出た言葉でせう。ヘブレオ書の第一章第七節からであります。即聖寵に因りて、被造物なる天使も人も一つの火の焰となれりと。

(中略)この月報に焰という名を付けたのも我々信者は皆自分の信仰の恵を周囲の人々に頒ち與へる義務のあることを覚えしめる為であります。どうか毎月の初め、お受け取りになられる月報がよく皆様の布教熱を燃やさんことを願ひます。」と巻頭言で述べられています。

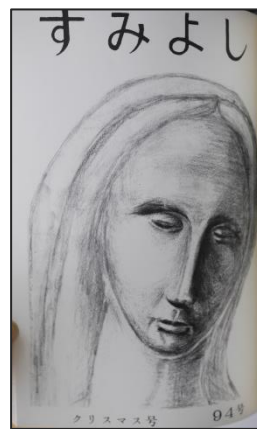
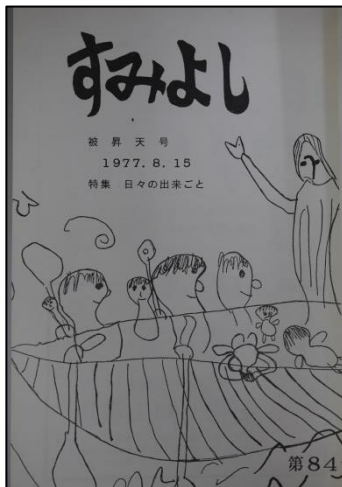




夏らしいイラストはキャンプ特集



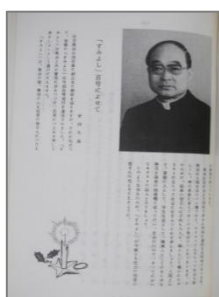
抽象画の表紙もありました



100号 (1981年)



100号によせて
安田久雄大司教が寄稿し
くださった文章です。



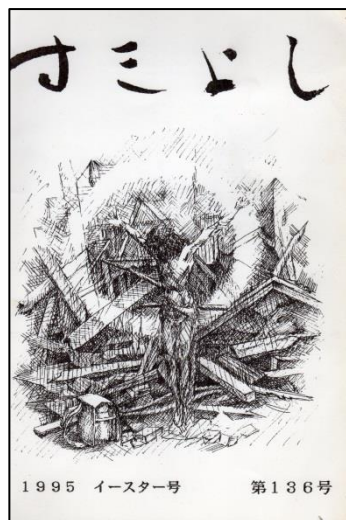
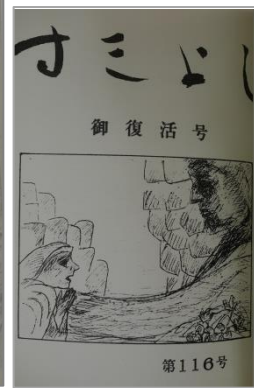
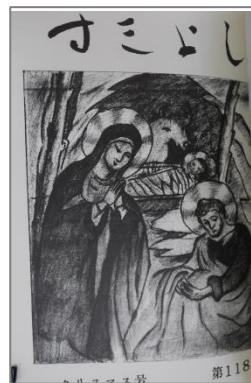
住吉教会は四年後に創立五十年周年を迎えますが、それに先立って、皆様の「すみよし」は今回百号発行を達成されました。「すみよし」が教会と共に着実に歩みつづけ、忠実につとめを果たして来たしるしとして喜びにたえません。

「すみよし」は、教会の姿、教会の心を信者の皆さんにつたえる使命を持っています。

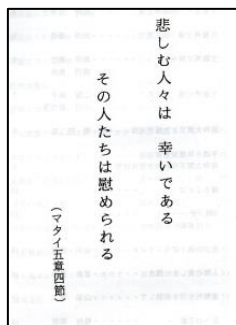
教会は目に見える団体であると同時に霊的な共同体であります。教会は人類社会のパン種であり、キリストの心をもって社会を新しくし、神の家族に変えていくのが教会のつとめであります。そのために、信者の皆さんは子供も大人も、職人として働かれたキリストにならって社会に生きるつとめを果しましょう。人間として、家庭の人として、学生生徒として、職業人としてのあらゆる努力を福音の価値観に従って行い、社会の只中で、すべてにおいてキリストの証人となりましょう。

このような歩みのため、「すみよし」が今後とも住吉の信者の皆さんの光となりますように。

すみよし百号によせて



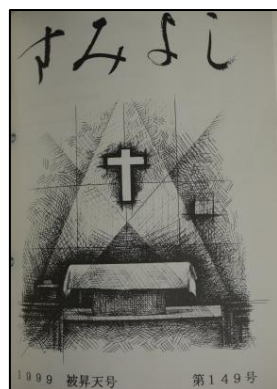
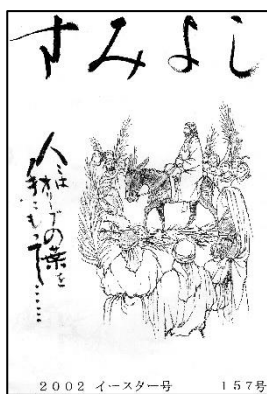
阪神淡路大震災の年の
復活号 「聖句」



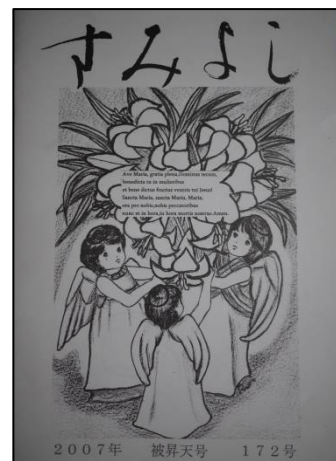
編集後記 (1995年4月16日発行・第136号)

御復活には住吉教会創立60周年記念号を出すべく昨年末から計画し、準備にかかっておりました。しかし、この大震災で断念をよぎなくされ、「すみよし」もしばらく休刊ということになりました。ところが、「生藤神父様のお別れに際して何もしないのは淋しいし、又、大震災の記録も残したいし・・・」という声が若い人の中からあがり、急きょ原稿を募集する事になりました。短い期間で案じておりましたが、沢山の原稿が集まり、ここに臨時号としてお配りすることができました。(抜粋)

震災後、印刷・製本は外注をやめて
信徒の手によるものとなりました。



この号からA4サイズ



「すみよし」のバックナンバーは住吉教会2階の図書コーナーにあります。A.M.さんが編集長時代に、散逸しないようにとバックナンバーを集め製本したそうです。おかげで住吉教会の歴史を振り返ることができます。皆様もどうぞご覧になってみてください。

「すみよし」創刊 200 号おめでとうございます。今は年 3 回の発行なので、単純に計算しても 70 年近い歴史を広報チームが紡いで来られたことになり、本当に素晴らしいことです。ガリ版印刷からパソコンでの編集を経た印刷機による印刷に変わっても、教会の様々な活動の記録媒体として貴重な存在ですので今後ともずっと続いていきますようにお祈り致します。

(A.T.)

すみよし誌 200 号おめでとうございます。和田幹男神父様のお父様が創刊された住吉教会の広報誌。創立 81 周年を迎える住吉教会の歴史の中で、常にかトリックのテーマを指し示し、わかりやすい信徒の拠り所として定着して来ました。個人でバックナンバーを全保管することは甚だ困難ですが、広報チームが創刊誌から保存されており、住吉教会の歴史そのものでもあります。これからも住吉教会の歩みとともに進んで参りましょう。

(T.U.)

長年にわたり「すみよし」編集に携わってきた広報チームのメンバーの 200 号に寄せる想いを掲載させていただきました。これからも「すみよし」を続けて行くことができますよう、皆様にあたたかく見守って頂けることを広報チーム一同、よろしくお願い申し上げます。

私の受洗した昭和 62 年 4 月の復活祭号第 116 号「すみよし」が手元にあります。その時点で 116 号ですから、今回の 200 号の半分以上の冊子が既に出ていたわけです。当時はクロスワードパズルや映画の紹介、広告も沢山載っていて、とてもおおらかで楽しい誌面です。昭和 28 年の創刊以来、途切れることなく今日まで続いている「すみよし」の 200 号編集にチームの一員として参加できる幸せに、感謝しています。

(J.Y.)

「すみよし」誌 200 号を手に取りひととき感慨深いものを覚えます表紙絵のことです。毎号毎号、既成の絵ではなく、住吉教会の信徒による力作なのです。中にはプロの画家何人かの作品もありました。失礼を顧みず、個展をなさっている画廊に押し掛けてお願いしたり、絵画教室の空き時間を狙って依頼に伺ったり、年間の 3 作をその都度提供して頂きました。素晴らしいものでした。教会学校の子供たちが提供してくれる絵は、ほのぼのとして、冊子を手にした途端笑みがこぼれます。これまで快く表紙を飾ってくださった多くの方々に、心より感謝申し上げます。

(M.M.)

「すみよし」200 号への想い・・・途絶えることなく続いたことに今まで「すみよし」に関わられた沢山の方々のご努力に感動と感謝の気持ちで一杯です。一年に三回発行の「すみよし」のお仕事（校正、印刷、製本）が出来ますことを感謝します。震災直後、不自由さの中でのがんばりも感慨深いものがありました。これからも末永く続いて行きますようにと祈りながら・・・。

(A.H.)

「すみよし」200 号おめでとうございます。

「すみよし」に初めて出会ったのは、稲田神父様の復活祭の時で、生藤神父様より洗礼を受け、平成 6 年のクリスマス号で A.M.さんの「校正者求む」を見た時で、本格的に広報と係わったのは、震災後チーム制になって広報チームに入ってからでした。私は元々校正が好き

で、通信講座で終了証を貰ったのは校正講座のみ、朝日カルチャーでも講座をうけ、朝日の大阪支局が見逃した誤りを見つけて余計楽しくなりました。「すみよし」は B5 版縦書きで外注、間違いが沢山ありましたが、チームで作るようになってから段々減り、今ではほとんど見当たりません。機械化というのも大きいですね。(Y.I.)

もう何年前でしょうか・・・稲田神父様や松本武三神父様のお顔が浮かびます。震災前の司祭館の一階左のお部屋で K.K.さん、A.M.さん、東京にお移りになった K.I.さんとその頃は集まって夜に校正をしていました。

T.A.氏が編集長？発行責任者で「責任は全部自分がとるから余計な気は使わないで下さい」と（これが名古屋弁で）おっしゃっていたのを懐かしく思い出します。

多くの方々の協力を頂き大震災の試練を越えて 200 号を迎えた今、頼もしい若い方達が編集をしてくださっている姿を拝見して心から神様のおはからいに感謝を申し上げます。(M.H.)

先輩達が住吉教会を愛し、ご苦勞を重ねて長年発行してこられた「すみよし」を、「震災で大被害を受けたこんな時こそ途絶えさせてはいけない」と外注から手作りに切り替え、K 氏がお一人で震災特集号を発行してくださったのが新しい形の始まりでした。その熱意が当時の広報部員の心を打ち、「復興からの記録誌としても住吉の歩みを残していこう」と決めてから今日に続いて 200 号を迎えました。チーム制に切り替わりメンバーも増え、最近は若い方々が編集を引き継いで下さり見違えるように洗練されてきました。ホームページの「すみよし」では写真もカラーで見られますので電子版もごらん下さい。(K.T.)

長年「すみよし」に携わられてきた K.K.さん、A.M.さんが 150 号記念に寄せられた文章を引用させていただきました。200 号を編集する私達にも力強いエールとなりました。

後記：150 号に寄せて

「老兵は死なず、消え去るのみ」或る將軍の心に残る言葉です。「すみよし」が信徒の自主運営により、色々な困難にもめげず、年 3 回発行の原則を守りつつ、半世紀近くつづけられてきた実績。私達は誇りに思っているのではないのでしょうか。内容のレベルも大切ですが、まず「継続は力なり」です。関わりを持たれた多くの亡き先達の方を想います。この教会がある限り、「すみよし」が大切にされますように。福音宣教の働きの一つとして、聖霊に照らされ、感性を磨きつつ互いに学んで行ってくださいますように。老兵の一人として熱く願っております。

K.K. (1999.12.24.第 150 号後記より)

後記

創刊号を振り返ってみると、変色した粗末な紙が製本されています。私が A 編集長の手伝いをはじめて何十年たったことでしょう。「150 号になった」と感慨を深めています。その昔、「しんどいですね。中止しませんか」と不満をもらすと A さんに「継続は力、細い火でも消したらあかん」と叱られてしまいました。A さんが亡くなり、「すみよし」も風前の灯となった時期もありましたが、K.K.さんと力を合わせてきました。

幸い後輩に恵まれ、最近は読みやすくなった、と好評を頂いています。150 号の努力の結果です。「すみよし」を愛する限り、神の愛に報いようとする限り、皆さんのご協力を頂きながら続きます。「すみよし」よ永遠なれ。

M.A. (1999.12.24 第 150 号後記より)

《編 集 後 記》

クリスマスおめでとうございます。

「命を謝す聖夜を沈黙せる神へ」

カトリックの洗礼を受けて亡くなった中村草田男の句です。

神さまは軒の小雀までお優しくいつもいたわり給う・・・という讃美歌が頭に浮かぶいつくしみの大聖年でしたが、なかなか困難な世の中です。

だからこそと私に思わせてくれる句でした。

M. H.

熱く燃え広がる信仰をイメージする「焰」というタイトルで産声をあげた「すみよし」は、今号をもって 200 号の節目を迎えました。阪神淡路大震災後の最も厳しい時期でさえ途絶えることなく刊行を続けることが出来たのは、ひとえに諸先輩方のご尽力の賜物と感謝します。縦糸に信仰、横糸に信徒の和で綴られてきた「すみよし」。その編集に携われる倖せと次世代に繋ぐ責任を感じました。

N. S.

教会案内

ミサ

主日ミサ	日曜日	9:30
	第 1・第 3 土曜日	19:00
	スペイン語	
週日ミサ	火・金曜日	9:30

講座

信仰講座 (Fr. 傘木)	Fr. 傘木担当日曜日	10:50
信仰の分かち合い	第 2・第 4 日曜日	11:00
聖書の集い	Fr. 傘木ミサ担当金曜日	10:00
Come & See	第 4 土曜日	15:00

教会学校

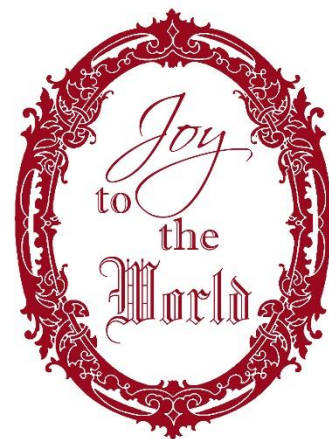
第 1・第 3 土曜日 14:00-16:00
対象：小学 1 年生～ 6 年生

評議会

第 3 日曜日 11:00

野宿者支援炊出し

第 1 土曜日 9:30
(住吉教会集合)



「すみよし」第200号

発行日	2016年12月24日
発行責任者	ブラッドリー神父/コンスル神父
編集・印刷・発行	広報チーム
発行所	神戸市東灘区住吉宮町2-18-23 カトリック住吉教会
TEL	078-851-2756
FAX	078-842-3380
http://www.sumiyoshi.catholic.ne.jp	